

平成30年度 島本町立第二小学校 学校経営方針

平成30年4月2日

島本町立第二小学校
校長 辻本 堅二

はじめに

予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かにはたさせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。こうした力は学校教育がその育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直すとともに、常に課題を明確にし、共有しながらそれらの課題に応じた取組を展開していくことが肝要である。

「学校経営方針」は、「学校教育目標」を具現化するための指針であり、すべての教職員の理解と協力がなくては達成しない。それ故、今からあげる経営方針をもとに、すべての教職員がチームとして力を合わせてほしい。

意図的に、計画的・組織的に教育課程を実施し、質の高い教育活動を創造していく。そして、学校を拠点としながら、保護者・地域との連携を深め、子どもたちに時代に即した「生きる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体）」を育成することを根底に置く。

1. 学校教育目標

- ・基礎学力の充実を図り、自分の考えをもつ児童の育成
- ・自他を大切にし、思いやりの心をもつ児童の育成
- ・心身ともにたくましい児童の育成
- ・地域とのつながりを大切にし、多様な視点をもつ児童の育成

2. めざす児童像

「自他を大切にし、自律的にものごとを考え、行動できる児童」

3. めざす学校像

- ・信頼される学校
- ・安全・安心な学校
- ・保護者、地域と連携する学校

4. 実践研究委嘱

- ・島本町小中一貫教育推進事業指定校
- ・二中校区施設併設型幼・小・中一貫教育指定校

5. 重点目標

「自己表現力、コミュニケーション力、つながる力を育てる」

- ・相手の気持ちを考えながら話を聞き、自分の気持ちや考えを表現する。
- ・相手のよさを認め、互いに励まし合って取組み、解決する。
- ・対話や話し合いの中で、自分の考えを深め、人との関わりをもつ。
- ・約束を守り、傾聴することで信頼関係を築く。

6. めざす児童像の実現に向けて、学校教育目標を具現化する取組を推進する。

(1) 確かな学力の育成

基礎・基本的な知識・技能の習得だけではなく、様々な状況の中で自ら考え、判断し、表現できる活用力、さらに生涯学び続ける力に通じる、新たな課題を追究できる探究力を身につける。

<授業づくり>

- ・わかる授業を追究、基礎・基本の定着を図るとともに、自ら考える力を育成する。
- ・教育計画、指導計画にしたがい、意図的・計画的な指導を行う（年間計画、週案の作成等）。
- ・目標や授業の流れの提示、振り返り活動等から形成的評価（日常の授業評価）に基づく授業改善を図り、学びの質を高める。
- ・系統的、階層的な言語力の育成を重視し、主体的、対話的で深い学びをめざした授業研究を継続的に行う。

- ・子ども学び部会が中心となり、研究を進める（少人数・研究授業・研修・評価）。
- ・教材の工夫とともに誉めることを重視し、児童の学習意欲を高める。

<読書指導>

- ・読書の時間、朝の一斉読書、読書週間を活用し、読書指導を充実させる。
- ・図書館の活用や学校図書館専任職員及びボランティアとの連携を通じて読書習慣を身につけさせる。
- ・家庭やホームでの読書習慣定着に向けての啓発を行う。
- ・学校図書館教育と授業との関連を図る。

<p>【H29 成果】</p> <p>①1～6年生全学年「国語科」における研究授業の実施 講師を招聘しての研究協議 今年度は講師2名体制（国語科の視点と子どもの変容及び繋がり視点）</p> <p>②府小国研のテーマ「ことばの力を高める授業～主体的・対話的で深い学びをめざして～」に沿って、全学年で研究推進ができた。</p> <p>③少人数担当による公開授業研の実施 →校内に新学習指導要領に沿った授業を提案し広める。</p> <p>④ 学期1回（2週間）の「読書週間」の実施</p> <p>⑤学級担任と図書館専任職員が連携した授業づくりの実施</p> <p>⑥ 図書館専任職員による「読書時間」の充実</p> <p>【H29 課題】</p> <p>①基礎・基本の定着・・・町・国の学習調査より 二極化</p> <p>②少人数授業の充実→児童数が多く個別指導を要する児童が多い。</p> <p>③授業の単元構成に学校図書館教育の視点を組み込む</p> <p>④読書をよくする。肯定的回答68%（昨年同様）</p> <p>【改善に向けて】</p> <p>①朝学習の時間の活用・・・スキルプリント等基礎学力定着用練習プリントの活用</p> <p>②少人数授業の時数増加</p> <p>③読書指導・・・担任と専任職員とのさらなる連携及び教科教育の中での読書指導研究の推進</p>
--

(2) 豊かな心の育成

全人的な人格形成をめざし、道徳教育や体験活動だけではなく学校教育活動全体で育んでいく。

<道徳教育>

- ・全体計画に基づき、教育活動全体を通じて、道徳性を養うよう指導する。
- ・「道徳の時間」では、教育活動全体と密接な関連を図りながら、道徳的実践力を育成する。
また、妥当性のある道徳の評価研究を推進する。

<人権教育>

- ・人権教育（年間計画の実施と見直し）の充実を図る。
- ・体罰、いじめ、差別や偏見のない人権が尊重された教育を推進する。

<集団づくり>

- ・自分を大切にし、自分と同じように他者を大切にする態度の育成を図る。
- ・一人ひとりがかげがえのない存在であることを尊重し、みんなが居心地のよい集団づくりに努める。
- ・それぞれの意見や気持ちが全体で出し合え、共有できる集団づくりを進める。

<p>【H29 成果】</p> <p>①道徳教育の充実に向けて・・・研究授業、協議の実施</p> <p>②人権学習カリキュラムの改正</p> <p>③ケース会議をこまめに設定し、内容についても検討できた。</p> <p>④自尊感情・自己肯定感の向上・・・「ほめことばのシャワー」取り組みの広がり</p> <p>⑤学校教育自己診断・・・児童「学校はいじめはしてはいけないと教えてくれる」94%</p>
--

【H29 課題】

- ①道徳の時間の充実・・・教材、掲示物等の作成・評価の研究
- ②みんなにとって居心地がよい学級集団・学年集団づくり
- ③施設との連携（教職員と施設職員との連携）

【改善に向けて】

- ①道徳推進教師を中心とした授業実践の共有
- ②学年教員と児童生徒支援加配等担任外教員との連携と取組みの共通理解
- ③ケース会議のさらなる充実
- ④施設との連携を進めるための方策を模索する。

(3) 健やかな体の育成

健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現をめざし、健康・安全で活力ある生活を営むために必要な力を育む。

<体育科等>

- ・体育科指導の充実を図り、運動好きな児童を育成する。
- ・体力テスト等により、体力の実態把握を行い、課題となる運動能力の改善に向けて取り組む。

<健康教育>

- ・保健指導等を通じて、健康で安全な生活を実現する自己管理能力の育成をめざす。
- ・「早寝・早起き・朝ご飯」等の基本的な生活習慣の定着への啓発を図る。

<食育>

- ・家庭科、食育指導等を通じて、日常の食事の大切さに気付くとともに、望ましい食習慣を形成する。

【H29 成果】

- ①体力テストの実施（一部実施も含む）・・・体育授業への活用
- ②「休み時間」の取組み・・・学期に1回「チャレンジ」の取組みによる運動の広がり
- ③栄養指導・・・学期に1回 栄養教諭による食指導・・・望ましい食習慣への理解
- ④食育と各教科を連携させての授業づくり

【H29 課題】

- ①体育科指導の充実
- ②児童の体力の低下
- ③さらなる食育と各教科と連携した授業づくりの推進

【改善に向けて】

- ①体育指導に関わる助言、先進的な取組みの導入
- ②体育科授業の充実、休み時間等の取組みの充実
- ③栄養教諭と各学年とのコミュニケーションの場を意識的に設定する。

7. めざす学校像の実現に向けて

学校は保護者や地域の理解・支援の中で成り立つコミュニティであり、児童をともに育てるという意識を忘れず、PTAや地域の人々への相互連携を推進していく。また、一人ひとりが学校の顔となることを忘れず、取組や対応の際にはそのことを常に心がけておく。

(1) 信頼される学校

<学校として（組織として）>

- ・「組織で動く学校」という意識・・・全教職員が力をあわせて
- ・管理職への報告・連絡・相談の徹底（校長・教頭・首席等による文書決裁を含む）
 - ・全教職員が方針に基づいた一致した指導方針で動く
- ・学級内での課題は、学年等のチームで対応・・・ひとりで抱えない
- ・教職員が互いの個性を尊重し、円滑な関係づくりに努める。
- ・与えられた自分の役割に責任をもつことはだけでなく、自分ができることを積極的に行う。

- ・全教職員が自己研鑽に励み、組織に還元する。

<教職員として>

- ・「わかる楽しい授業」の追究・・・教材、課題設定、発問の工夫、ICTの活用等
- ・日常の授業、日々の職務を通して自ら学ぶ姿勢を大切にする。
 - ・・・OJT意識、メンター方式
- ・授業研究を推進し、効果的な授業の共有化を図るとともに評価研究を進める。
 - ・・・評価規準の見直しと年度当初の提示、通知表の改訂、(ルーブリックの研究)

<幼小中一貫教育>

- ・「小中9年間の育ち」を見据え、第二中学校との連携強化を図る。
 - ・・・合同研修、つながり、小中生指協、施設連携等
- ・小中のカリキュラムの接続を見通した教科研究を進める。
- ・町全体の推進協議会への参加と、校内での授業公開、研究会を実施する

<支援教育の推進>

- ・障がいのないねいな把握と、個に応じたきめ細かな指導
 - ・・・ユニバーサルデザインに基づく環境づくり、授業づくり
- ・障がいのある児童の社会参加と自立をめざす教育を進める。
- ・保護者、通級指導教室、関係機関との連携を進める。

【H29 成果】

- ①文書決裁による「報告・連絡・相談」の徹底
- ②経験年数の浅い教職員への計画的な研修
- ③支援学級在籍児童の実態交流と発達障がい等の症例と支援手立て・・・校内研の実施

【H29 課題】

- ①学年としてのチーム対応の弱さ
- ②校務分掌の自覚と責任
- ③通常学級在籍児童の支援学級への入級の有無の把握

【改善に向けて】

- ①管理職、担任外等によるケース会議の充実
- ②校務分掌の役割の周知・・・特に、若手教員へ
- ③支援学級への入級に関して早期（1学期個人懇談時）からの相談

(2) 安全・安心な学校

- ・教職員全体の危機管理意識の向上を図るとともに危機対応能力を養う。
- ・安全計画に基づいた施設・設備の点検、避難訓練を行うとともに安全学習に取り組む等安全教育を推進する。
 - ・・・学校安全マニュアルの作成、効果的な避難訓練の実施、安全学習の実施、(セーフティ・プロモーション・スクールの認証に向けた取組)
- ・「学校いじめ防止基本方針」、マニュアル等に基づいた問題行動等の早期発見・早期対応(いじめ・不登校・虐待、問題行動、セクハラ、個人情報保護等)を心がける。
- ・地区委員、ボランティア等との連携により、登下校の安全確保に努める。

【H29 成果】

- ①いじめ防止への組織的な取組み・・・学校教育自己診断「学校は、いじめ防止や早期発見の取組みを組織的にやっている」(教職員)肯定的回答 96%
- ②安全ボランティア等による登下校時の見守り(9人)

【H29 課題】

- ①危機管理意識のさらなる高揚
- ②研修の実施

【改善に向けて】

- ①職員会議等での啓発

(3) 保護者・地域と連携する学校

<情報発信>

- ・教育活動を公開し、掲示物や通信の発行等により児童の成長を発信する。

<保護者・地域との連携>

- ・保護者からの相談・意見等は真摯に受け止め、関係づくりに努める。
- ・施設との連携と緊密な交流を進める。
- ・誠実かつ迅速に対応し、特に初期対応には細心の注意をはらう。
- ・コスト意識をもち、限られた範囲で最大の成果を生む工夫を行う。
- ・学校の教育活動の丁寧な発信と協力の呼びかけを行う。
- ・PTA 行事や地域行事へ、積極的に参加する。
- ・島本町学校支援「ゆめ本部」を積極的に活用する。

【H29 成果】

- ①学校教育自己診断「学校では、保護者や地域の人たちに授業を公開したり、つながりを深める機会を多く設けたりしている」肯定的回答 96% (昨年度83%)

「学校は様々な学校教育活動に対し、保護者や地域の方々の協力や連携が図られるよう努めている」
肯定的回答 96% (昨年度97%)

- ②PTA 行事、地域主体の行事への参加

- ③授業に保護者・地域の方々が関わっていただいた。

【H29 課題】

- ①ホームページの定期的更新、デザイン・レイアウトの工夫

- ②保護者や地域の方々が授業に関わっていただくことについての研究推進

【改善に向けて】

- ①ホームページの更新についての啓発

- ②ボランティアグループとの協働

8. 教職員としての基本姿勢

- ・教育公務員としての自覚のもと、社会人としてのモラルやマナーを守る。・・・関係法令の遵守
- ・教職員の言動が学校の評価となる意識をもつ。(服装(名札着用を含む)・言葉遣い・言動・環境整備等)
- ・心身の健康は充実した教育活動の基盤となる(仕事にメリハリと、規則正しい生活を)。
 - ・勤務時間適正日(一斉退庁日:水曜日、第4金曜日)の遵守
- ・温かい言葉、温かい視線、さりげない心遣い等を心がける(全教職員に居心地のよい環境)。
- ・人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法など自己啓発に努める(質の高い教育基盤を)。